



隠れた力を引き出す

学園に赴任し、学園生と共に毎日を送り、はや1年が過ぎました。この間の彼らの成長には目を見張るものがあります。さまざまな場面で予想以上、期待以上の力を発揮し、われわれを驚かせてくれました。

昨年の9月、高等部全員（110名）でオーストラリア研修旅行を行いました。それまで当社の台湾工場の見学と観光を中心にしていたのを変更したものです。今回は初めての試みとして短期間ながら全員のホームステイを織り込みました。これまで3年生から選抜してホームステイ（カナダetc.）を実施していましたが、国際化がわれわれの身近な問題となっている昨今、1人ひとりの実体験の大切さを考え、いろいろな懸念を抱えながらも思い切って全員参加に踏み切りました。

その準備として2年次から英会話に力を入れ、またオーストラリアの歴史、地理、文化等の勉強をしてきました。しかし出発が近づくにつれ学園生の不安は大きくなっていったようです。初めて飛行機に乗る生徒も多かったのですが、機内では実に整然とマナーも良く、スチュワーデスから「彼らはgentleですね」とうれしい評価も得ました。実はホームステイへの不安と緊張で、はしゃぐどころではなかったというのが真相のようです。

メルボルンでそれぞれがホームステイに入ったときは、未熟な会話力でうまくやっつけられるかどうか大変気がかりでした。しかし、全員研修日に集まった彼らは生き生きと楽しげにホームステイ先での話をお互いに、またわれわれに熱っぽく話してくれました。言葉のハンディにもかかわらず、ホストファミリーが一生懸命にコミュニケーションをとろうとしてくれる姿勢に打たれ、彼らも精一杯応えようと素直な気持ちになれたのではないのでしょうか。帰国

後のアンケートでは、工場見学や観光は記憶に薄く、「ホームステイの期間を延ばしてほしい」「もう一度オーストラリアへ行ってホストファミリーに会いたい」といったようなホームステイで受けた感動の大きさがうかがえる感想が目立ちました。

この短期間の体験が彼らに自信を持たせ、大きな影響を与えたことは、その後の学園生活での姿勢、真剣さへの変化に読み取ることができます。研修旅行がただの観光旅行に終わらず彼らの一生の楽しい思い出になり、また成長の足がかりにもなったことを心からうれしく思いました。

このように学園内にとどまらずより広く社会を見、異なった分野での体験やそこで活躍する人々と接することが、彼らの心を動かし成長の大きなキッカケになります。そのような場面を積極的に提供する大切さを改めて痛感しました。

当学園では、2年次になると月の半分は専攻学科別に技術、工機、生産工場等で実習を行います。技能の習得が一番の狙いですが、現業部門の第一線で活躍する先輩の姿を身近に見ることにより、彼らに具体的な目標ができるとともに励みにもなっています。

「青年は教えられるよりも刺激されることを欲する（ゲエテ）」という言葉がありますが、学園生の隠れた力を引き出し、それを大きく伸ばせるような刺激的な機会や場を、少しでも多く作っていきたいと思います。

ふじわら しんいち

略歴 昭和48年 トヨタ自動車工業（株）入社
生産企画室、生産管理部、
物流管理部、人材開発部勤務
平成9年 トヨタ工業技術学園学園長、
現在に至る